



第5回 企画展

1996年

1月13日(土)

2月12日(月)

NATURE OF SUGAO MARSH 1996 菅生沼の自然-1996



●開館時間

午前9時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

●休館日

毎週月曜日
(但し 1月15日(月)、2月12日(月)は開館)
1月16日(火)、2月13日(火)は休館

●入館料

小・中学生 120円 (60円)
高・大学生 360円 (240円)
大人 600円 (480円)
※()内は20名以上の団体料金

この料金には常設展・野外施設入場料が含まれています。

◆臨時休館のお知らせ

2月19日(月)から2月28日(水)までの期間は、全館くん蒸のため臨時休館いたします。



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館

〒306-06 茨城県岩井市大崎700番地 TEL 0297-38-2000
ハローダイヤルいばらき 029-226-8600 #8886(プッシュ回線)

次回企画展 『鉱物たちの素顔』 1996年4月13日(土)～1996年6月2日(日)
—その魅力をさぐる—

NATURE OF SUGAO MARSH 1996

菅生沼の自然－1996

総面積232haに及び茨城県指定自然環境保全地域「菅生沼」は、アカメヤナギ、ヨシ、マコモが茂り、冬期には数千羽のカモ類とともに数百羽のコハクチョウが飛来越冬するすばらしい自然に恵まれたところです。しかしながら、近年急速に水域が減少し湿地乾燥化が進行し、いかにこのすばらしい自然を保全するかが大きな課題になっております。

当館では、このテーマに取り組むべく調査を始めました。今回の企画展では、その成果の一部を紹介します。この企画展が、多くの皆さまとともに自然のすばらしさ大切さについて考えていく契機となれば幸いです。

1 菅生沼の姿



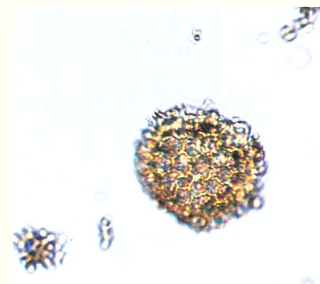
法師戸開門上空より望む菅生沼

岩井市及び水海道市にまたがる菅生沼周辺一帯は、区域内に生存する動植物を含む自然環境が優れた状態を維持している湖沼として、1975年12月23日に茨城県自然環境保全地域に指定されました。ここでは、航空写真などによって、現在の菅生沼の概要を紹介します。

2 菅生沼の生いたち



有孔虫化石
Pseudomonian japonicum



タデの花粉化石
Persicaria

菅生沼は、最終氷期に侵食された谷に縄文の海が入り、その海が退くとともに利根川の運ぶ堆積物で出口をふさがれて形成されました。その後、江戸時代の新田開発など人為的な改変を受けながら現在の姿になりました。地理的な環境や気候的な環境の移り変わりのようすを貝類、有孔虫、花粉、珪藻などの化石資料、古代遺跡出土資料などにより紹介します。

3 菅生沼の生きものたち



ハンゲショウ群落

(1)植物

菅生沼一帯に分布する植物群落は、水際から沼の縁へヒシ、ガマ、マコモ、ヨシ、オギの各群落に移り変わり、沼の縁のところどころには大木のアカメヤナギやハンゲショウなどのめずらしい植物群落もみられます。これらのようすをジオラマやアクリル封入標本資料などで紹介します。



コハクチョウ

(2)動物

菅生沼一帯では、38科178種の鳥類が確認され、冬にはコハクチョウをはじめとしてカモ類など多くの野鳥が越冬します。また、1,000種を超える昆虫類、そして、哺乳類、爬虫類、両生類、魚類、多くのプランクトンがさまざまな生活を営んでいます。ここでは、剥製標本資料、拡大模型標本などでそのようすを紹介します。

4 これからの菅生沼



1949年当時の菅生沼空中写真
(国土地理院資料)

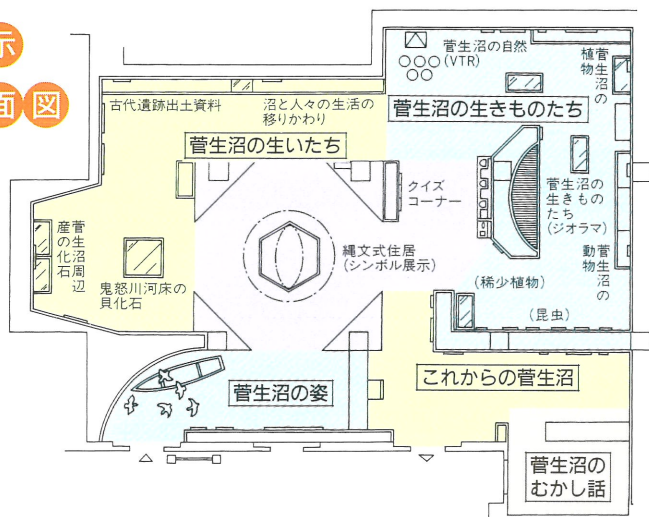
1993年菅生沼空中写真
(国土地理院資料)

1949年に撮影された空中写真によると当時の菅生沼は、沼全域の85%も開水面がありました。1993年までの移り変わりのようすとさらに植生との関係を紹介します。また、過去20年間の水質の移り変わりなどについても紹介し、菅生沼について皆さんとともに考えていきたいと願っております。

5 その他

- (1)クイズコーナー「わたしはだれ？」
野鳥の鳴き声や虫の音当てなどのクイズがあります。
- (2)昔話コーナー「菅生沼に伝わる昔話」
「菅生沼の白い鯉」などの昔話を紹介します。

展示 平面図



次回企画展 『鉱物たちの素顔－その魅力をさぐる－』
1996年4月13日(土)～1996年6月2日(日)